

国際平和へ連携強化を

NGOや企業マン80人

活動の在り方探る

国連ボランティア計画 岡山でワークショップ

世界各国で発展途上国の難民支援や開発プロジェクトなどをを行っている国連ボランティア計画(UNV、本部・ジュネーブ)主催の「UNVワークショップ イン 岡山」(UNV主催)が十三日、岡山市内のホテルで開かれた。参加したボランティア関係者は、平和のためのパートナーシップの在り方などについて意見交換した。(4面に関連記事)



国際的なボランティア活動に取り組んでいる県下のNGO(非政府組織)や企業、自治体の関係者約八十人が出席。初めにブレンダ・マックスウィーニー・UNV事務局長が「今回のワークショップを、UNVと岡山との平和に向けてのパートナーシップ確立の契機としたい」とあいさつ。国連ボランティアとしてカンボジアで選挙監視活動中に亡くなった中田厚仁さんの父親で、現在UNV名誉大使を務める中田武仁さんが「世界市民」と題して基調講演した。

この後、UNVの活動を紹介したビデオの上映や出席者へ交えてのシンポジウムが行われ、出席者が岡山のボランティア活動の現状を報告したほか、UNVと岡山のNGO、自治体などとの連携の在り方について活発に意見を交換した。

中田さんは、自主性の欠如や、損得だけで物事を考える心などが日本のボランティア精神の発展を妨げている、と指摘。「一人ひとりの命には限りがあるが、われわれの努力で人類全体の命は長続きさせるこ

UNVと県下のNGOなどのパートナーシップの在り方が話し合われた「UNVワークショップ」